

麻しんの検査状況 (2012年)

患者発生状況

埼玉県内の麻しんは、第18週(4月30日～5月6日)以降今週まで4週連続して届出があり、第1週からの累積届出数は14人で、前年の同時期までと同値となりました(図1)。

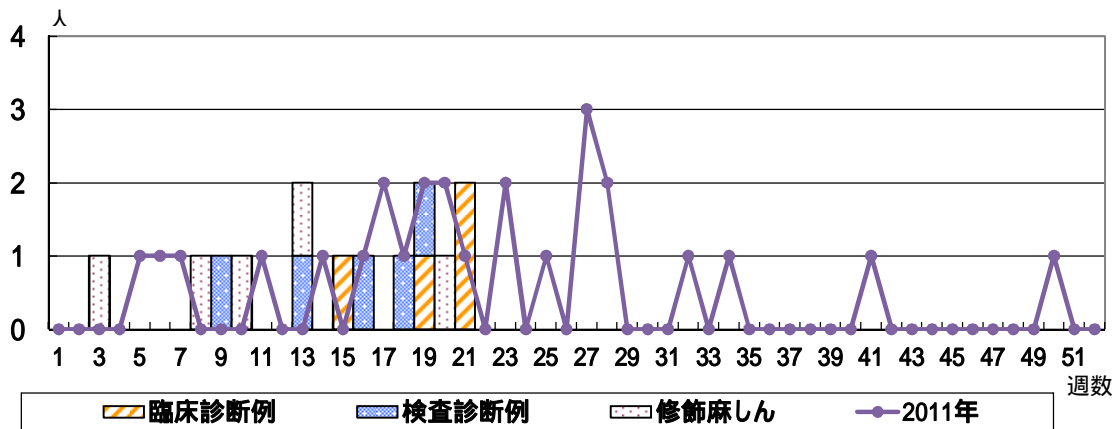


図1 麻しん週別届出数(診断週集計:2011年,2012年)

(1) ウイルス検出状況

埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターでは、「麻しんに関する特定感染症予防指針」に基づき麻しん病原体検査を実施しています。2011年に、麻しん(疑い症例を含む)として搬入された38例のうち、麻しんウイルスが検出されたのは、1例のみでした。

2012年は、第20週までに麻しん(疑い症例を含む)検体7例が検査され、麻しんウイルスの検出はなく、風しんウイルスが2例、アデノウイルスが1例から検出されました。

(2) 麻しんのIgM抗体検査について

麻しんのIgM抗体検査では、麻しん以外の発疹性ウイルスに罹患している場合にも、交差反応により陽性となることがあります。国立感染症研究所では、発疹出現後4～28日に、EIA法でのIgM抗体価が5未満の場合には、麻しんではない可能性が高いとしています。最近の知見に基づく麻しん検査診断の考え方について、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ「麻しん診断のアルゴリズム」

(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/pdf01/arugorizumu.pdf>)に詳しく示されています。

麻しん(臨床診断例)及び抗体検査による修飾麻しんを診断した場合は、特異性の高い遺伝子検査への御協力をお願いします。

麻しんの遺伝子検査では、EDTA血、咽頭ぬぐい液、尿の3点を発症早期に採取してください。陰性を判断するための適切な検体採取時期は、発疹出現後7日以内です。